

第二四六回ペン川柳会

令和六年十一月二十五日

お題 「手」

■ 西川（醉雅）
すいが

手を焼いた子供に今は手を引かれ
手の皺が分からぬくらい目も見えず

■ 三春（火酒）
ウオツカ

手切れ金払う女と泣く男
中東戦イエスもアラームもお手上げた

■ 八木（明迷）
めいめい

アンコール拍手よ止まれ帰れない
左手のリング外して無重力

■ 浜田（我々好）
ウイスキー

悪手だね選挙さなかに二千万
株買えと手練手管に乗ったバツ

■ 山縣（安兵衛）
やすべえ

仮名手本思いを込めているろは歌
ふたり旅手に手取り合い網島へ

■ 稲宮（井波）
いなみ

手遅れか保険加入に宝くじ
手の内は我田引水MAGA旋風

■ 安藤（晃二）
てるつぐ

泥足に母の手ピシヤリ速きこと
一手間やガラス戸を開けチチ口聴く

■松谷(零門)
れいもん

書くことをサボり続けてタコ消えた

闇バイト手段選ばず金取らす

■大野(だし)

近頃は口は遅いが手は早い

神の手とだます相手は若後家さ

■塚田(拿々)
だだ

若い頃何度も食った空手形

この頃は間違い多く手綱締め

世話人 塚田 實(拿々)
だだ